

コミュニケ: Grand Renewable Energy 2018 国際会議 宣言文

グランド再生可能エネルギー2018 国際会議 “再生可能エネルギー導入をいかにして加速するか”

2018年6月17日-22日、パシフィコ横浜

2018年6月22日、採択分: 横浜発

「再生可能エネルギー導入をいかにして加速するか」をテーマに、第4回のグランド再生可能エネルギー国際会議が今週横浜で開催された。会議には世界45か国から約1100人が参加した。基調講演やパネルディスカッションに引き続き、国際的組織や教育研究機関、産業界、各国政府等の専門家から、再生可能エネルギーの社会導入に関する科学、技術、経済、社会、環境など幅広い側面における課題について、口頭やポスターで発表が行われた。

会議での発表や議論の結果、次のような再生可能エネルギー導入加速のための方向を示す基本的な理解や提案が得られた。

- 本会議は2006年以来4年ごとに日本で開催されてきたが、この間に再生可能エネルギーの貢献は増大し続けており、その重要性もより広く認識されてきた。
- 再生可能エネルギーの導入は世界中で増大し続けており、今や新設される発電施設の中で再生可能エネルギーに基づく発電源が最大容量になっている。2017年には、新設の発電容量の70%が再生可能エネルギーに基づくものであった。
- 風力発電や太陽光発電は、いまだ革新的研究開発の対象ではあるものの、技術的に成熟してきており、従来型の発電源と競争できるコストになっている。世界的には、風力や太陽光が他に比べて最も安価な発電源になっている地域もある。
- 既に、変動する再生可能エネルギーが発電量の30%を超えている国・地域もあるが、電力システムは制御能力の柔軟性を増大させ、再生可能エネルギーに対する親和性をより高める必要がある。
- エネルギー貯蔵の重要性が広く認識されるようになってきている。揚水発電による貯蔵だけでなく大型の蓄電池が変動電源の出力制御のために導入されつつある。再生可能エネルギーから作られる水素や炭化水素は、将来重要なエネルギーキャリアとなることが期待される。
- 世界のエネルギー需要において電力化の割合が増大し続けている。この意味で、運輸や冷暖房の分野は、再生可能エネルギーがより広範に導入可能な分野である。
- 将来のエネルギーのセキュリティと持続可能性にとって、再生可能エネルギーのなお一層の普及が必要であるが、このためには、コスト低減と共に、再生可能エネルギーシステムに親和性の高い政策と、良く設計された経済的ルール策定の策定が決定的に重要であり効果的でもある。

学会、産業界、政府は共に、再生可能エネルギー分野はこれまでに非常に大きく進歩してきたと認識しているが、上述のように、今後も多くの事を成し遂げねばならない。

我々、再生可能エネルギー分野の技術や政策の専門家は、実用的で、効率が良く、安全で信頼性の高いエネルギーの開発への貢献を世界中で継続する。次回、2022年の日本における国際会議では、今後4年間の活動と成果が発表される予定である。